

天然ニホンウナギの漁獲実態・資源状況の解明

(新成長戦略研究 新たなウナギ産業の創出)

(予算区分 新成長戦略研究 研究期間 平成25～27年度)

担当：水産技術研究所浜名湖分場・富士養鱒場
田中寿臣 鈴木基生 上原陽平 青島秀治 鈴木邦弘

【研究の背景とねらい】

ニホンウナギは、平成26年6月に国際自然保護連合が絶滅危惧種に指定するなど、資源の減少が危惧されていますが、ニホンウナギの漁獲実態や資源状況など基本的な情報は少ないのが現状です。そこで、シラスウナギとして本県に来遊してから親として産卵場へ下るまでのニホンウナギの基本データを収集し、本県におけるニホンウナギ保護のための施策を講じるために役立てていきます。

【研究成果】

- ・ 浜名湖におけるシラスウナギの来遊は、12月または翌年の1月から5月までの期間のみで、来遊のピークは3月または4月でした。
- ・ 河川に来遊するシラスウナギの全長は5～6cmですが、その年の夏には約15cmまで急成長し、その後毎年5～10月の高水温期に約5cmずつ成長していくことが分かりました。

- ・ シラスウナギは河口域の砂泥底に生息しますが、その年の夏には生息場所を砂礫底に移し、1歳以上となると、砂礫底だけでなく、大きな石の間隙などにも生息することも分かりました。
- ・ 浜名湖では9月か

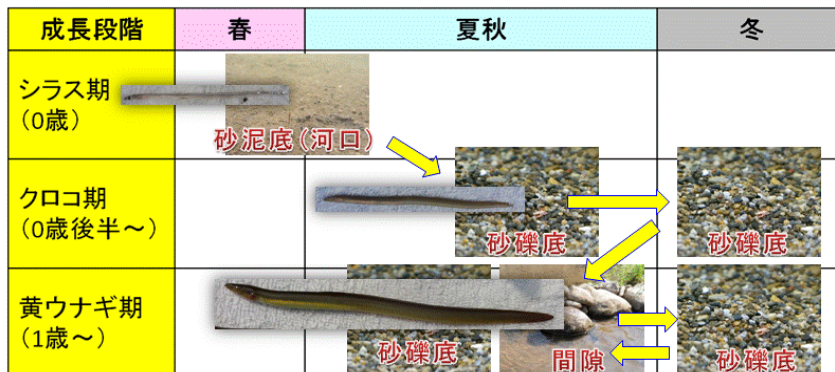


図1 ニホンウナギの成長と生息場所との関係

ら翌年1月ごろにかけて、黄緑色の体色(黄ウナギ)が黒く変化し、鰭が長くなるなどの特徴をもった銀ウナギが漁獲されるようになります。そして、これこそが、産卵場へ向かう親ウナギであると考えられました。浜名湖でウナギを漁獲する方法は小型定置網とうなぎ壺が主体ですが、銀ウナギは小型定置網で多く漁獲されることが分かりました。

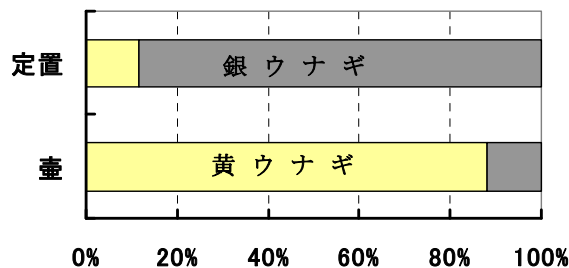


図2 漁法別の黄・銀ウナギの漁獲割合(10～12月)

【研究成果の普及方法】

- ・ 調査を継続しつつ、河川管理者、漁業者、放流事業者などと研究成果を共有し、ウナギの生態を考慮した河川管理のあり方の提言や銀ウナギの放流方法の改善等を通して、ウナギ保護策の実効性向上を目指します。

(作成 平成28年3月)